

令和7年度 自己評価表

ケイセンビジネス公務員カレッジ

1. 教育目標

- (1) 人づくりを通じて社会に貢献する
- (2) 学生の夢を実現させる
- (3) 社会に有用な人材を育成する

2. 基本方針

- (1) 学生の可能性を最大限に引き出し、学生の夢を実現する学校を目指す
- (2) 学生と共に、職員も成長しながら生き生きと働ける学校を目指す
- (3) 地域に愛され、なくてはならない学校を目指す

3. 今年度の重点目標

- (1) 公務員合格率の向上
- (2) 就職内定率の向上
- (3) 検定試験合格率の向上
- (4) 本物のビジネスパーソン、本物の公務員を育てる
- (5) 入試広報部と連携した入学者の確保
- (6) ケイセンの校舎改修準備

4. 評価項目の達成、取り組み状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価
学校の理念・育成人材像は定められるか	4・3・2・1
学校における職業教育の特色は理解されているか	4・3・2・1
社会経済のニーズを踏まえた将来構想を抱いているか	4・3・2・1

(評価: 4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切) 以下同様

(ア) 課題

「本物のビジネスパーソン・本物の公務員」の育成を目標として、社会を生きていくための知力を身に付けた人材育成に努める。また、学生やステークホルダーへの啓発活動に努める。

(イ) 改善方策

理念・目標に関しては、定期的に行われる教育課程編成委員会において、時代の変化・ニーズに対応できるように適宜見直しており、それらに基づき学科構成、カリキュラム、教育内容等々、学内施設等のハード面も含め取り組むべき施策や HR の活用や HP や学校案内を工夫し、信頼、支持される学校づくりに向けてより一層の取り組みをする。

(2) 学校運営

評価項目	評価
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4・3・2・1
運営組織や意思決定機関は、規則等で明確化されているか	4・3・2・1
人事・給与に関する規定等は整備されているか	4・3・2・1
地域社会や企業との信頼関係が醸成されているか	4・3・2・1
情報システム化等業務の効率化が図られているか	4・3・2・1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4・3・2・1

(ア) 課題

教職員の活用方法に重点を置く。

(イ) 改善方策

オンライン授業や事務業務等への PC や Ipad を使用した効率的な活用方法を考案、実施していく。また、教育課程編成委員会を積極的に活用していく

(3) 教育活動

評価項目	評価
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4・3・2・1
育成人材像を踏まえた修業年限に対応した時間は確保されているか	4・3・2・1
実践的な職業教育の視点に立ったキャリア教育がなされているか	4・3・2・1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4・3・2・1
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの体系的な位置づけは明確か	4・3・2・1
人材育成目標の達成に向けた授業を行う教員は確保されているか	4・3・2・1
関連分野との連携において、優れた教員の確保が図られているか	4・3・2・1
教職員の能力開発のための研修が行われているか	4・3・2・1

(ア) 課題

授業内容については、シラバスを掲示し各科目の意義や必要性を説明しその内容に基づいた授業を実施している。今後は、インターンシップの強化や様々な学生のニーズや授業手法等に関するアンケートの実態を反映し、魅力ある授業づくりを目指して改善を図ることも必要である。

(イ)改善方策

本学の授業は、知識教育と合わせ、積極性、主体性、協調性、コミュニケーション能力等々、人間性の向上・育成も目指している。より効果的、有意義な教育活動にするために毎年、学生よりアンケートを実施し授業内容、システムの見直しに活用している。2年課程である行政マネジメント学科・総合ビジネス学科は、職業実践専門課程に認定され、職業実践型の授業を取り入れている。科目の一部の習熟度別授業や検定試験合格へ向けた放課後の補習等の特別講習体制を取って学生の能力や興味に合う授業を提供する。

(4) 学習成果

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	4・3・2・1
資格取得率の向上が図られているか	4・3・2・1
退学率の低減が図られているか	4・3・2・1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4・3・2・1

(ア) 課題

公務員就職内定率及び企業就職率向上に向けて取り組みの強化を図ることにより、総合ビジネス学科では13年連続就職率100%を達成、公務員就職率に関しては、一次合格100%、最終合格91.5%となり昨年並みの合格率を達成した。しかし、今後の雇用状況や社会情勢の変化により就職活動に向けた就職指導・支援のさらなる強化が課題である。また、資格取得率では、公務員試験と重なり授業への参加ができず理解が不十分だったためたいへん低い合格率となってしまった。

(イ) 改善方策

今年度は、きめ細やかな情報収集・情報提供・就職支援等により、早期に学生の進路が決定した。今後も継続した支援体制を行うとともに社会情勢を把握し、時代に合った就職支援に努める。公務員系学科の資格取得については、適宜補習授業を実施するなど理解が不十分な学生への支援を強化していく。

(5) 学生支援

評価項目	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学生相談に関する体制は整備されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学生に対する経済的支援体制は整備されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
高校・高等専修学校との連携による職業教育の取り組みが行われているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
父母等と適切に連携しているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

(ア) 課題

公務員希望者には、クラス担任が公務員採用試験の出願から受験までの指導・教育を行っており、学内で官公庁人事担当者を招き説明会も実施している。民間就職希望者に対しては、クラス担任とキャリアサポート室が連携し就職相談、提出書類の書き方、面接対策等々を行っている。学校行事に関しては、従来の行事に戻って実施できた。福利厚生については、例年通り、全学生を対象とした災害・傷害保険の加入や健康診断を実施している。今後は、専任のカウンセラーを軸とした学生に対する進路の悩みや個人的な事情等のメンタルヘルスに関する対応もさらに整備するとともに早期離職防止を図る手立てを講じる必要がある。

(イ) 改善方策

本校では学生一人に対し、クラス担任、キャリアサポート室担当など複数人で就職をサポートする体制をとっている。また、学生相談体制に関しては、クラス担任や専任カウンセラーにより実施している。また、学生の学習活動、就職活動などあらゆる指導において父母等との連携が重要であると考えており、その学生に合った個別対応・指導を実施している。また、早期離職防止のためにプチ同窓会を実施する。

(6) 教育環境

評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4・3・2・1
防災に対する体制は整備されているか	4・3・2・1

(ア) 課題

築30年以上経過し経年劣化している個所を把握し早期に修繕していくことが課題である。

(イ) 改善方策

今年度は各階の洋式トイレの完備や壁の塗り替えを実施したが、今後は老朽化の著しい所の改修を計画的に進めていく。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	評価
学生募集は適切に行われているか	4・3・2・1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4・3・2・1
学納金は妥当なものとなっているか	4・3・2・1

(ア) 課題

学生募集については、毎年学校案内・募集要項を更新・作成し行っている。また、広報は毎年計画を作成し、それに基づいた広告・宣伝を行っている。年間を通して、オープンキャンパス、出前授業を実施するとともに、学外ガイダンスに参加し、入学志望者の相談を積極的に行っている。学生募集に関し、少子化、競合校、高卒求人数の増加等々の影響により、年々入学者の確保が厳しく なっており、募集定員の充足が最大の課題である。

(イ) 改善方策

入学生確保に向けた活動の前倒しや学校訪問の回数を増やす・説明会、公務員セミナー、体験授業等々、内容の見直し含め計画的に実施する。また、就職内定率、公務員合格率、検定合格率の実績を更に高めることを目指しながら、在校生や県内すべての高等学校への周知徹底等の情報発信に努めるとともに、今まで以上に高校訪問を積極的に行うとともに SNS を活用した広報活動も行っていく。

(8) 財務状況

評価項目	評価
中長期的に学校の財務状況は安定しているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
財務について会計監査が適切に行われているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
財務情報公開の体制整備は出来ているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

(ア) 課題

少子化の進展により収益確保が厳しくなっている。今後、ケイセンビジネス公務員カレッジの校舎の経年劣化にともなう、修繕費等がかかるため、計画的に予算化し実施することで教育環境改善を図っていくことが求められる。そのため、少子化の中での定員充足が必要である。

(イ) 改善方策

専門学校への進学減少等が予想され収益環境も更に今後厳しくなる事が予測されるため、財政基盤を中長期的に安定に努める。固定費の削減・経費節約に努めるとともに、教育の質を低下させないように学校全体で意識を高め、より一層の取り組みをする。そこで、令和8年度からは研修センターを開設し補助事業による収益を上げていく。また、ひとりでも多くの入学生を確保するための工夫や新学科設立について検討する。

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4・3・2・1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4・3・2・1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4・3・2・1
自己評価結果を公開しているか	4・3・2・1

(ア) 課題

全教職員への自己評価のフィードバックを行って共有していく必要がある。

(イ) 改善方策

研修会や職員会議などにより徹底していく。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4・3・2・1
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4・3・2・1
地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4・3・2・1

(ア) 課題

献血活動に関しては、学校として毎年 2 回、30 年以上にわたり積極的に参加し、厚生労働大臣からの表彰状を受賞するなど高い評価を得ている。防災教育に関しては、全学科のカリキュラムに入れ防災検定準2級を受験者全員が取得した。またボランティア活動として、猪苗代湖の水質改善活動、Blue Ship 活動、週1回の地域清掃を継続実施しているが、学生の自主活動が少ない。今後は地域に対するボランティア活動に積極的に参加したい。

(イ) 改善方策

今後も、地域に密着した更なる社会貢献活動の実施を目指す。献血活動、防災検定準2級の取得や防災士資格取得、地域被災時の支援活動、猪苗代湖のヒシ刈りや清掃活動、公園や海岸の地域清掃等のボランティア活動を推奨・支援し継続的に社会貢献の役割を果たすため、地元の小学校や町内会等に防災講座開催を提案するなどさらなる地域との連携や社会貢献活動に取り組んでいきたい。また、学生組織構築を図っていきたい。

5. 総合評価

公務員の合格率に関しては、行政系学科と公務員試験対策部が一体となり試験対策に取り組み、昨年以上の高い合格率を達成した。総合ビジネス学科の就職率に関しても13年連続100%を達成することが出来た。入学生に関しては、微増ではあるが昨年度よりも入学者の数を増やすことができた。次年度さらに入学者を確保するための早期活動、時代に合ったカリキュラム編成、デジタルを活用した広報活動等々、さらに原因分析を行いながら対策を講じていく。

本学の使命は「社会に有用な人材育成」であり、本物のビジネスパーソン、本物の公務員を育てることにある。人材を超えた“人財”となれる人づくりを目指し、教職員が一丸となり学生の育成に努めたい。